

2016年1月29日
全国労働金庫協会

国際労働財団招聘事業〈中南米チーム〉の訪問を受けました。

全国労働金庫協会は2016年1月29日に、公益財団法人国際労働財団（以下、JILAF）が招聘した中南米チーム（ブラジル、チリ、コロンビア、コスタリカ、メキシコ、パナマ、ウルグアイの7か国・12名の労働組合役員）の訪問を受けました。

当労金協会は、JILAFの主催する労働組合指導者招聘事業において、2009年度より労働金庫講義について協力しています。

今回は、当会において〈ろうきん〉の成り立ちや理念、また現在展開している事業活動について説明しました。



招聘チームのメンバーからは、労働組合のない企業の労働者はろうきんを利用できるのか、個人への融資の上限額はどのように決定されるのか、ろうきんは堅実経営が見て取れるが、不良債権比率を低く抑えるためにどのようなことをしているのか、等の様々な質問が出されました。



また、中央労働金庫のご協力のもと、中央労働金庫本店営業部を視察いただきました。